

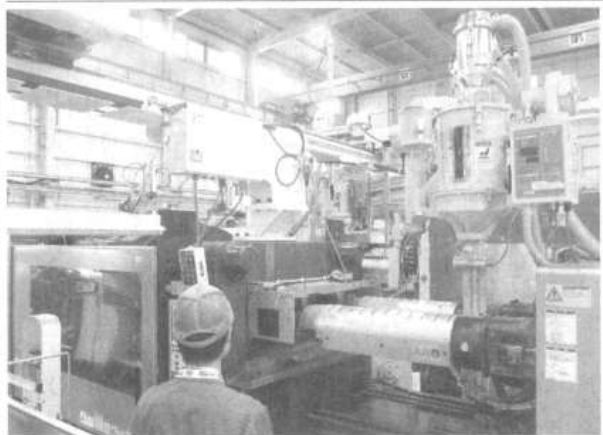
2色成形部分メッキ 柿原工業、量産ライン導入

車内装部品向け増強 一体加工で異音防ぐ

【福山】柿原工業（広島県福山市、柿原邦博社長、084・953・8100）は、2色成形部分メッキの量産ラインを設置した。樹脂部品の必要箇所のみを効率的にメッキする同ラインで、需要が高まる自動車の内装部品加飾に対応。大手自動車メーカーへの供給を始める。投資額は約6000万円。3年後をめどに、付加価値の高い2色成形部分メッキの自動車内装部品向けに4億円の売り上げを目指す。

2色成形部分メッキとメッキラインを新設は、メッキがのるA面、B面、自動車内装部品向S樹脂とメッキが付かないポリカーボネイト樹脂を一体成形し、マスキングなしで部分メッキする技術。同社は新たに2色射出成形機

デザイン性を高める狙いでメッキ加飾が増加。つや消しを施した



車載部品用に2色成形部分メッキの量産体制を整備

また、メッキ品と通常の樹脂成形品を組み付けると、自動車の走行時に金属と樹脂が擦れ合って「異音」が発生する場合があります。フェルトを貼り付けるなど対策はあるが、工数が増えるデメリットが発生する。メッキと樹脂の部品が締結するところにメッキが析出せず、有効面のみメッキを析出させることで異音防止や、樹脂部品一体化による供給で自動車メーカーのコスト減につながる。

柿原工業は金属部品の金型から成形、メッキまでの一貫処理が強みで2016年4月期売上高は51億円。約70%を自動車メーカーなど向けが占める。